

不登校とならないための魅力ある学校づくり

「不登校対策チーム」

- 【構成】
- ★ 人権教育課
 - ★ 心の教育センター
 - ★ 小中学校課
 - ★ 教育事務所 等

訪問・指導



学校

○学校支援のポイント（例）

【児童生徒理解】

- ・児童生徒の悩みや困りごとを把握するための仕組みや的確な見立てができていますか
- ・保健室や学校内の別室、教育支援センター等、学校内外での居場所や学習の機会が確保されているか

【学級づくり】

- ・子ども同士が、互いを認め合い、助け合うことのできる温かい学級づくりができていますか
- ・児童生徒の主体的な活動を仕組み、自己有用感を感じることができるよう配慮ができていますか

【学習支援】

- ・児童生徒の学習の到達度を把握し、わかりやすい授業づくりに努めているか
- ・学習障害等発達上の特性に配慮した個に応じた学習支援ができていますか

【校内の組織的な支援体制】

- ・小学校での欠席情報等から不登校に移行する可能性を把握し、日頃から注意されているか
- ・支援を必要とする児童生徒について、早期に校内支援会等で支援方針を検討する体制が整っているか
- ・個別支援シート等を作成し、組織的に支援を行うとともに、支援の進捗状況の引き継ぎが確実にされているか

【教職員の資質（研修）】

「いじめ予防等プログラム」（H31年度完成）

- ・いじめや児童虐待、発達障害等、児童生徒を取り巻くさまざまな問題に対する教職員の理解を深めるための研修が計画されているか

【保護者への支援】

- ・保護者との連絡を密に取り、信頼関係を築くことをできているか

【外部人材や関係機関との連携】

- ・SCやSSWを積極的に活用することができているか
- ・必要に応じて、児童相談所や医療機関につなぐなど、関係機関との適切な連携ができていますか

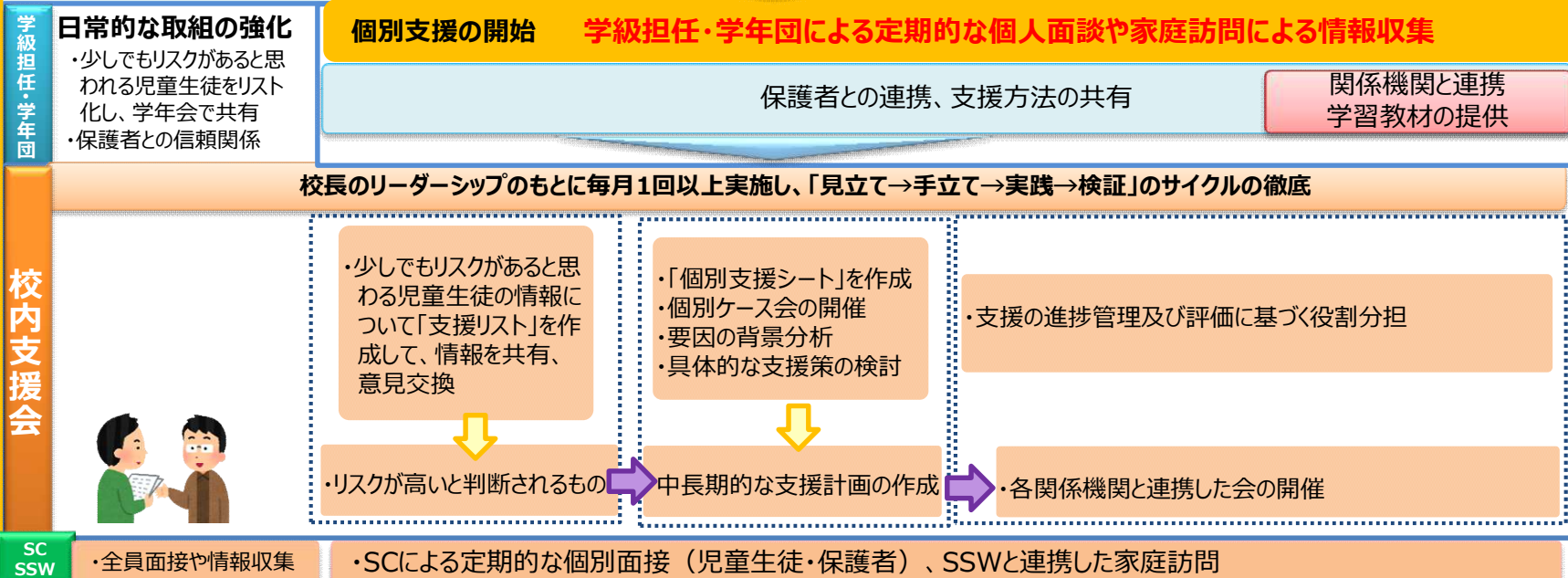


不登校児童生徒に対するきめ細かく柔軟な対応

	潜在期	初期	本格期	回復期	始動期
子どもの状況	不登校のリスクが潜在化している状況 ・学業の不振 ・人との交流が苦手 ・情緒的混乱 ・厳しい家庭環境 など	登校しぶり等が見られる状況 ・起床時間が遅くなる ・朝だけ体調不良になる ・不安に襲われている など	登校困難な状態が本格化している状況 ・学校にほとんど行かない ・昼夜逆転した生活 ・ネットやゲームに没頭 ・生活習慣が乱れる など	心身のエネルギーがたまり始めた状況 ・親しい人と会話できる ・暇や退屈を感じている ・学校や社会への不安や恐怖もある など	外部とつながろうとする意欲を持ち始めた状態 ・教育支援センターや別室登校ができる ・「〇〇したい」という意見を言う など
支援のポイント	・全ての児童生徒にとって居心地の良い魅力的な学校づくりに努める ・保護者との信頼関係を築く	・子どもの気持ちや考えを共感しながら聞く ・無理に登校させようとせず、一旦休息を与える	・行動を強制せず、本人のやりたいことをさせる ・他人と比較せず、ありのままを受け入れる	・行動化は求めない ・本人の興味関心を聞き出して、関連する情報を提供する	・本人が主体に行動することを重視し、行動化するためのきっかけづくりをする ・できることから実行できるよう必要な支援を行う

徹底強化

学校全体での組織的支援

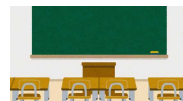


未然防止

全ての児童生徒対象に、学校に行きたくなくなる学校・学級づくり
授業や行事等の工夫改善

初期対応

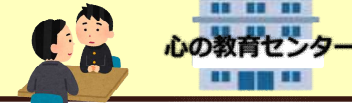
学校を休みそうな児童生徒や休みが見られ始めた児童生徒への個別対応
別室登校・保健室登校 など



専門家を含む関係機関等と連携した支援

心の教育センター

- ・校内支援会への指導、助言
- ・ケース会への指導、助言



児童相談所

- ・児童虐待事案への対応
- ・非行事案への対応



医療機関・療育福祉センター等

- ・発達障害の診断及び対応
- ・精神性疾患の診断及び対応



教育支援センター

教育支援センター等

- ・安心できる居場所づくりや域外の児童生徒の柔軟な受け入れ
- ・社会性の育成
- ・個に応じた学習支援

